

令和6年度枚方市立中宮中学校 学校評価

1. 学校教育目標

すべての生徒に、自分と社会を結びつけて考え、行動できる力を育成する 《めざす子ども像》 人を大切にする生徒・責任をもって自己決定できる生徒・自分で考えて行動できる生徒 《中宮中学校区めざす子ども像》 『自ら考え行動し、多様性のある社会の中で、共生できる子ども』
--

2. 学校経営重点目標

1. 学力向上(学ぶ力を育てる) 2. 社会の中で他者と支え合い自立する力の育成 3. 支援教育・人権教育の充実 4. 生徒指導の充実 5. 道徳教育の充実 6. 健やかな体と心を育む教育 7. 教職員研修の充実 8. 小中連携の充実 9. 危機管理 10. 家庭・地域との連携の推進・充実
--

3. 本年度の取組内容及び自己評価

基本 方策	項目	・本年度の重点目 標	○具体的な取組内容 (◆活動指標・成果指標を含める) ()は昨年度%	□取組内容の自己評価 ◆生徒調査% ◇保護者調査%
確 かな 学 力 と 自 立 を 育 む 教 育 の 充 実	・教育課程 ・学習指導 ・キャリア教育	1. 学力向上(学ぶ力を育てる)	①対話的なグループ学習や、ICT を有効に活用して、生徒が主体的に学びに参加し、深く思考し学ぶ授業を行い、生徒の「自分と向き合う力」「自分を高める力」「他者とつながる力」を育てる。 ・研究テーマに正対した研究(研究授業等)が実施できたか。 ・非認知能力育成への取り組み状況。 ・アンケート(生徒) 「課題(問題)解決に向け、さまざまな方法を見つけ、実行することができる」 強く肯定する回答の割合 44%(R5) 以上。 ②効果的な単元計画提示と学習評価の充実により、生徒の「学ぶ意欲」と「学ぶ力」を向上させる。 ・教室掲示の状態 ・アンケート(生徒) 「授業はわかりやすくしっかり学べる」 肯定的回答の割合88%(R5) 以上。 ③授業と関連付けた家庭学習課題、AIドリル等 ICT 教材を活用し、自学学習力を育成する。 ・アンケート(生徒) 「家庭では自ら課題を見つけて学習している」 肯定的回答 60%(R5) 以上。 ・アンケート(保護者) 「子どもは家で、自分で計画を立てて…」 肯定的回答の割合 46.9%(R5) 以上。 ④小テスト、補充学習、ICT 活用などで基礎学力の定着を図り、課題のある生徒の学力を保障する。 ・アンケート(生徒) 「授業はわかりやすくしっかり学べる」 肯定的回答の割合88%(R5) 以上。 ⑤配慮を要する生徒の状況を把握し、教育的ニーズの整理を行い、授業の UD 化や困り感に寄り添った合理的支援により、すべての生徒の学びを保障する。 ・どの教室も UD の環境が整っているか。 ・アンケート(生徒) 「授業はわかりやすくしっかり学べる」 肯定的回答の割合88%(R5) 以上。	①「学びに向かう力」の育成に取り組みしました。ペア・グループ学習や ICTを活用した授業に取組み、生徒の学ぶ「考える力」や「言語力」、「コミュニケーション力」の育成に取組みました。 ◎研究授業の実施 ◎非認知能力育成への取組み ◆「課題(問題)解決に向け、さまざまな方法を見つけ、実行…」強肯定回答割合 49.9% (参考)「授業を通じて自分の考えを深めたり、広げたり…」肯定的回答割合 92.3% ②単元計画の教室掲示に取組んでいます。単元によってはあえて見通しを持たせないことで、生徒の「学びに対する意欲」を高めるなど学習効果を狙った取組みも工夫があります。 ③家庭学習習慣の定着は、前年比で改善はみられるもの課題と捉えています ◆「家庭では自ら課題を…」肯定的回答の割合 57.7% ◇「子どもは家で、自分で計画を立てて…」肯定的回答の割合 41.5% ④補充学習の実施、小テストや単元末テスト、基礎基本の定着に取組んでいます。 ⑤教室環境のユニバーサルデザインは定着しています。 生徒のポジティブな姿勢を価値づけ、発達支持的な生徒支援を進めています。 ◆「授業はわかりやすくしっかり学べる」肯定的回答の割合 86.3%
		2. 社会の中で他者と支え合い自立する力の育成	①総合的な学習を軸としたカリキュラムマネジメントと、キャリアパスポートを有効に活用しキャリア教育を充実させ、「自分と社会を結び付けて考え、行動することができる生徒」を育成する。 ②一人ひとりの生き方を考える進路学習と、生徒が主体的に進路を選択するための適切なアドバイスと支援を行い、すべての生徒の希望する進路を実現させる。 ・アンケート(生徒) 「地域や社会をよくするために、何をしたらいいか考えることがある」肯定的回答 62%(R5) 以上。 「将来の夢や目標をもち、実現するために取り組もうと思っていることがある」 強肯定回答の割合48%(R5) 以上。	①職業講話(1 年)、職業インタビュー(2 年)、社会課題解決の取組み(3年)を実施しました。社会課題に向き合う機会を設け、自分と社会を結びつけて考え、行動する力の育成を進めています。 ②各学年の発達段階に応じた進路学習を進めています。3年生では進路決定に向けた教育相談と懇談を通じて、一人ひとりの進路選択、実現を支援しています。不登校傾向の生徒など進路保障が困難な生徒への支援の充実が課題です。 ◆「地域や社会をよくするために…」肯定的回答の割合 61.6% 「将来の夢や…」強肯定の割合 42.5%

豊かな心と健やかな体を育む教育の充実	・支援教育 ・人権教育 ・生徒指導 ・保健管理	3.支援教育・人権教育の充実	①生徒の状況を踏まえ、生徒、保護者の思いに寄り添い、個に応じた支援教育により、すべての生徒に社会での「自立」に必要な力を育む。 ②いじめなど身近な人権侵害を見逃さず、自分たちの力で解決する取り組みと、学年・学級での「ともに学びともに育つ」教育を推進し、生徒に豊かな人権意識を育み、行動力を育成する。 ・個別の支援計画、指導計画、リタリコ（アセスメント）の活用状況で見取る。 ・アンケート（保護者） 「学校には子どものことで相談できる先生がいる」肯定的回答 71.9%（R5）以上。 ・アンケート（生徒） 「先生は困っているとき、相談に乗ってくれる」強肯定回答の割合 69%（R5）以上。 「いじめはどんな理由があっても」強肯定回答の割合 90%（R5）以上。 アンケート（教職員） 「すべての子どもが学習に参加できる個別最適……」肯定的回答の割合 82.6%（R5）以上。 ③同和教育、在日外国人教育、多文化共生教育、障害理解教育、ジェンダー平等教育など社会にある人権課題や戦争への正しい理解を深め、平等・共生社会と平和実現への実践力を育む。 ④いじめなど身近な人権侵害を見逃さず、自分たちの力で解決する取り組みと、学年・学級での「ともに学びともに育つ」教育を推進し、生徒に豊かな人権意識を育み、行動力を育成する。 ⑤子どもを「権利の主体」として尊重し、授業や生徒指導などの日々の教育活動の在り方について、検証し、生徒が自他の人権の大切さを実感できる教育を実現する。 ・事前事後指導等、適切に実施できたか。 ・アンケート（生徒） 「先生は、私たちの意見や考えを大切にしてくれる」強肯定回答の割合 68%（R5）以上。	生徒の状況を把握し、生徒と保護者の思いに寄り添って支援教育を進めています。 学習活動を中心に班活動など小集団での協働的な学びを通して、共感的人間関係の構築を図っています。 いじめ事案に対して、生徒指導主事を中心とした組織的対応を徹底し、学級や学年において、日常から誰にとっても居心地の良い教室づく りが土台となるよう取組みをすすめています 「発達支持的生徒指導」の視点から支える生徒指導のあり方を研究 し、生徒指導・支援の改善を進めています。 ◇「学校には子どものことで相談できる先生がいる」肯定的回答 42.8% ◆「先生は困っているとき、相談に乗ってくれる」強肯定回答の割合 65% ◆「いじめはどんな理由があっても」強く肯定する回答の割合 87.5% アンケート（教職員） 「すべての子どもが学習に参加できる個別最適……」肯定的回答の割合 86.2% ③④ それぞれの取組みにおいて事前学習、事後学習に計画的に実施することができた。 ◆「いじめはどんな理由……」87.5% ◆「命の大切さや人権について学んだり……」76.1% ◆「先生は私たちの意見や考えを大切にしてくれる」62.4% ◆「授業や給食を通して……」64.3% ◇「子どもと食事や栄養、運動など……」76.6% アンケート（教職員） 「多様性を尊重する力やジェンダー……」96.9%
		4.生徒指導の充実	①報・連・相を徹底して組織的な生徒指導を実践し、生徒が安心して学べる学校を実現する。 ②学級、学年集団づくりを生徒指導の土台に据えた「発達支持的生徒指導」により、自治・自律力のある生徒を育てる。 ③薬物乱用防止教育やメディアリテラシー教育、交通安全教育、防災教育により、自らの命と健康を大切にする知識と意識を育む。 ④組織的な日常の見守りに加え、生活アンケート、Q-Uテスト、ICTを活用した「気持ちの可視化」「SNS相談」を併用し、教育相談体制を整え、生徒の思い、困り感をきめ細やかに把握し、寄り添う指導を充実させる。 ⑤いじめ・不登校・虐待に対する教職員の意識と指導力を高め、未然防止と早期発見、的確な初期対応に組織的に取り組み、生徒を全力で支援、問題を解決する。 ⑥不登校の原因や背景を適切にアセスメントし、多職種の専門家とも連携・協働を図り、対応していく。 ⑦配慮と支援が必要な生徒についてのアセスメントと的確な外部機関連携で、生徒の安全を守る。 ・職員間での情報共有、必要な専門家や、外部機関との連携ができているか。（毎週1回の生徒指導部会） ・アンケート（生徒） 「落ち着いた雰囲気の中で授業を……」強肯定回答の割合 41%（R5）以上を。 「生徒会行事や委員会、学級活動に積極的に参加している」強肯定回答の割合 49%（R5）以上。 「命の大切さや人権について学んだり」強肯定回答の割合 82%（R5）以上。 ・取組みの実施と生徒の振り返りなどで見取る。 ・不登校生徒の数及び、社会的自立（つながり）があるかで見取る。 ※新規不登校生徒数（R4：11名）（R5：3名）	学習活動を中心に班活動など小集団での協働的な学びを通して、共感的人間関係の構築を図っています。 いじめ事案に対して、生徒指導主事を中心とした組織的対応を徹底し、学級や学年において、日常から誰にとっても居心地の良い教室づくりが土台となるよう取組みをすすめています 「発達支持的生徒指導」の視点から支える生徒指導のあり方を研究し、生徒指導・支援の改善を進めています。 学級や学年において、日常から誰にとっても居心地の良い教室づくりが土台となるよう取組みをすすめています。 今年度は特に、「発達支持的生徒指導」の視点から支える生徒指導のあり方を研究し、生徒指導・支援の改善を進めています。 ひきつづき心理的安全性の保全された学校をめざしていきます。 ◆「落ち着いた雰囲気の中で授業を……」強肯定 39.4% 肯定的回答の割合：73.8% ◆「生徒会行事や委員会、学級活動に積極的に参加している」強肯定回答の割合 43.9% ◆「命の大切さや人権について学んだり」強肯定回答の割合 76.1%

豊かな心と健やかな体を育む教育の充実		5.道徳教育の充実	①道徳の授業を中心に、自己を見つめ、多面的・多角的に考え議論することにより、道徳的な判断力、心情、実践する力を育む。 ②教科書の読み物教材を中心に、問題解決的な学習や体験的な学習を適切に取り入れた道徳の授業及び、学校のエデュケーション全体を通じて、道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度を育成する。 ・各学年でローテーションによる道徳が円滑に実施できているか。 ・アンケート(生徒) 「いじめはどんな理由があっても…」 強肯定回答の割合 90% (R5) 以上。 「命の大切さや人権について学んだり…」 強肯定回答の割合 82% (R5) 以上。	生徒の状況を把握し、道徳教育、人権教育の取組みを進めることができました。また生徒と保護者の思いに寄り添って支援教育を進めています。 人権課題について正しい理解を深め、実践力を育むため、出会いから学ぶ講演会などの学習の機会を設けました。 6/28 人権講演会「多文化理解について」 外国にルーツがある生徒の「多文化のつどい」も、料理など通した多文化の交流を行いました。 ◆「いじめはどんな理由…」87.5% ◆「命の大切さや人権について学んだり…」76.1% ◆「先生は私たちの意見や考えを大切にしてくれる」62.4% ◆「授業や給食を通して…」64.3% ◇「子どもと食事や栄養、運動など…」76.6% アンケート(教職員) 「多様性を尊重する力やジェンダー…」96.9%
	6.健やかな体と心を育む教育		①体力向上や食育、睡眠学習、スマホ依存、命と性に関する教育など生徒の実態を踏まえた学習の機会を設け、啓発に取組み生徒の体と心を育てるとともに、家庭の意識啓発をすすめる。 ②性に関する指導を通じて、生徒が性に関する課題に適切に対応できるよう正しい知識を身につけ、実践するとともに、自他を尊重する態度の育成を行う。 ③「枚方市中学校部活動方針」に則り、適切な練習時間、休養日、休養期間を設定し、生徒の心身のバランスの取れた成長を促す。 ・アンケート(生徒) 「授業や給食を通じて、食の大切さや重要性…」 強肯定回答の割合69% (R5) 以上。 ・アンケート(保護者) 「子どもと食事や栄養、運動など健康的な…」 肯定的回答の割合78.4% (R5) 以上。 ・アンケート(教職員) 「多様性を尊重する力やジェンダー平等を実現する力を育む力の教育に取り組んでいる」 肯定的回答の割合 91.3% (R5) 以上。	
教職員の資質と指導力の向上	・研修 ・学校評価	7.教職員研修の充実	①服務研修や人権教育に関わる研修、セルフチェックなどにより、生徒に範を示す立場にある教育公務員であることを常に自覚して行動する資質を涵養する。 ・服務研修実施とアンケート(教職員) 「セクハラやパワハラ服務上の問題なく気持ちよく働ける」の強肯定割合 69.6% (R5) 以上。 ②学力向上担当を中心に、校内研修・教科、ミニグループの研究授業・教科会議での授業プラン研究討議などに組織的に取り組み、「主体的・対話で、深い学び」の授業力を身に着ける。 ③実践的なICTの活用研修と環境整備を進め、授業の改善や業務改善を効率的にすすめる。 ・「枚方版 ICT 教育モデルに基づいた端末の活用を行っている」強肯定割合43.5% (R5) 以上。 ④生徒指導主事を中心に生徒指導の実践や学級づくりなど課題に則した生徒指導研修に取組み、個々の教員の指導力の向上を図る。 ・8/1実施の夏季校内研修の振り返りから検証。 ・アンケート(教職員) 「いじめや暴力行為など生徒の問題行動や不登校に組織的に対応できた」の肯定的割合 100%。 ⑤大人教や府外教が主催する研究会への参加や、人権課題に関わる校内研修、社会問題に関する情報共有を推進し、教職員が確かな人権意識、人権に関する知識と指導力を身につける。 ⑥ローテーション道徳を活用した道徳の指導力の向上と評価の充実・改善に取組む。 ⑦学校教育目標の達成に向け、諸調査のデータや生徒の実態を踏まえた PDCA サイクルを働かせ、カリキュラムマネジメントに取組む。 ・アンケート(教職員) 「学校の教育活動全体について、学習指導要領のねらいや意義を理解して実現に向けた工夫・改善を行っている」肯定的回答の割合 78.2% (R5) 以上。 ・「自分と社会を結びつけて考え、行動できる力を育成する」を達成に向けた取り組みが進んでいる」肯定的回答の割合 86.9% (R5) 以上。 ・アンケート(教職員) 「主体的に研修や実践発表に参加するなど、授業力や生徒指導力など教職員としてのスキルアップに積極的に取り組んでいる」 強肯定回答の割合52.2% (R5) 以上。	①⑤⑥年間を通して計画的な服務研修を実施できました。今後も、職員が当事者意識をもって研修に臨めるよう題材の検討をおこなっていく。 ②1学期末に学力向上授業アンケートをとり、夏季の職員会議で成果と課題の共有を行いました。 「ワクワクした授業」について、生徒が自由記述する欄を設け、そのコメントをもとに教員同士の対話が生まれたり、相互に授業参観を行うなど教員のモチベーション向上につながっていました。 ③ほぼすべての授業で、タブレット活用が進んでいます。 ④いじめ防止対策推進法、中宮中いじめ対応方針に則り、適切に対処することができています。 ⑤上記参照 ⑥上記参照 ⑦学校グラウンドデザインの見える化と浸透がいっそう進みました。 アンケート(教職員) 「セクハラやパワハラ服務上の問題なく気持ちよく働ける」肯定的回答割合 94.1% 強肯定回答割合 67.6% ・ミニグループによる研究授業、教科研究授業共に予定通り実施できた。 ・10月より、学力向上委員会発信の研修(チョコレート Box)が運営されている。教職員のニーズに沿った題材で、多様な価値観に触れ合うことができる内容で、好評である。今後の職員研修のあり方のロールモデルになると感じている。 「授業力のスキルアップに積極的に取り組む」強肯定回答割合 42.4% 「枚方版 ICT 教育モデルに基づいた端末の活用を行っている」強く肯定する割合45.5% 「いじめや暴力行為など生徒の問題行動や不登校に組織的に対応できた」の肯定的割合 100% 「学校の教育活動全体について、学習指導要領のねらいや意義を理解して実現に向けた工夫・改善を行っている」肯定的回答の割合 87.9% 「自分と社会を結びつけて考え、行動できる力を育成する」を達成に向けた取り組みが進んでいる」肯定的回答の割合 90.1%

学 び の セ ー フ テ ィ ネ ッ ト の 構 築	・教育課程 ・情報提供 ・保護者連携	8.小中連携の充 実	①校区小中学校で育てる児童・生徒像を共有し、義務教育9年間の学びを見据えて系統的な学力向上・生徒指導・キャリア教育など校区一貫教育を推進する。 ②推進委員会、生徒指導部会、事務部会、支援教育部会などで校区小中学校の教員の顔が見える交流、情報共有を実現する。 ・実施日程と内容の共有化を図る。 ・アンケート(教職員) 「子どもの自己肯定感が高まる支援を…」 強肯定回答の割合 52.2% (R5) 以上。 「主体的に研修や実践発表に参加するなど…」 肯定的回答の割合 73.9% (R5) 以上。	・小中一貫教育推進事業をすすめ、校区の3小学校との合同研修や合同授業研究を実施しました。 ・毎月のブロック校長会では、校区の課題や取組みの共有を図るとともに、方針の打合せを適宜行うことができています。推進部会で校区共通の課題を共有しながら9か年の一貫した教育活動の推進をめざしてまいります。 校区の小中一貫事業推進 ○7/22 合同研修会実施(山田小) ○11/15 合同研究授業(明倫小) アンケート(教職員) ◎「子どもの自己肯定感が高まる支援を…」 強肯定回答の割合 55.8% ◎「主体的に研修や実践発表に参加するなど…」 肯定的回答の割合 81.8%
		9.危機管理	①食物アレルギー疾患への対応、熱中症、感染症対策等において組織的に取組み、生徒の命と安全を守るとともに、自他の生命を大切にすることを育むための取組みを行う。 ②自然災害・不審者侵入・交通事故等に対する安全教育、防災教育を充実させ、生徒に生涯を通じて安全に生活を送る基礎や危険に適切に対応する力、自分自身を守るために主体的に行動する態度を育み、地域の一員として小学生や地域の災害弱者を守る生徒を育てる。 ・生徒に対して効果的な避難訓練となったか。 ・アンケート(生徒) 「地震や台風、火災などが起こった場合、どのような」強肯定回答の割合 51% (R5) 以上。 ・教職員に対してリスク研修を実施したか。	危機管理委員会からのリスク研修を予定通り実施している。職員室の心理的安全性の向上に引き続き取り組んでいきます。 危機管理委員会からのリスク研修を予定していた以上に実施し、職場全体で危機リスクに関する啓発が進んだ。 アンケート(教職員「服務上の問題なく気持ちよく働ける」強肯定回答割合 67.6%
		10. 家庭・地域との連携の推進・充実	①これからの学校の在り方と地域連携の構築に向けて、PTA、地域教育協議会やコミュニティなどの地域団体との情報交換、取組み参画の在り方を考え、地域の学校としての役割を果たす。 ②日常の教育活動について学校だよりや学年通信、保健だよりなどの発行物、ブログなどの小まめな情報発信を進めるとともに、新学習指導要領と評価、学校の授業改善や業務改善など新しい取組みについてもわかりやすい情報発信に努め、理解、協力を促進する。 ・アンケート(保護者) 「学校には子どものことで相談できる先生…」 肯定的回答の割合 71.9% (R5) 以上。 「学校は、ブログや通信などを通じて、学校の取組みを」 強肯定回答の割合 58.8% (R5) 以上。 ※肯定的回答の割合 93.4% (R5)	共催による「中宮中フェスタ」についても、学校がどのような形で参画していけるかが検討課題であります。 保護者、地域への学校の見える化を意識して、学校ブログ、学校だより、保健だよりや学年通信、学級通信などの発信をすすめています。 学校が取り組んでいる「これからの社会を生き抜くために求められる力を育む教育」「教職員の働き方改革」「これからの部活動あり方」などについてもいい説明をし、理解をしていただくことが必要です。 ◇「学校の情報発信について」強肯定的回答割合 46.8%

4. 学校関係者評価（学校協議会より）

評価結果
学ぶ力の育成 :「授業研究に年間を通して取り組んでいる、すべての先生方が子どもたちのために授業力や指導力向上のために研修や研鑽を行っている点がよくわかりました。」 「先生たちの主体性のある研修が実施されていることに安心しました。引き続き、生徒の実態を踏まえた研修内容等の検証をお願いします。」 「取り組んでいるキャリア教育が社会の中で他者と支え合い自立する力の育成にどうつながっているか検証が必要では？」
支援教育・人権教育の充実 :「子どもたちに互いに認め合う事の大切さを学ぶ機会の充実を」「人権尊重の視点は現代が抱える大きな課題である、根気強く取り組んでほしい」
生徒指導の充実 :「いじめ等困難な課題を学校が抱えていることはよくわかる。引き続き、保護者や地域を巻き込んだ形で学校のいじめに対する対応や不登校生徒に対する対応など協力しながら進めていってほしい」
道徳教育の充実 :「学校全体で道徳への取り組みなどを通して、生徒の心理的安全性が高まる工夫を」
健やかな体と心の育成 :「学校全体で健康教育への取り組みなどを通して、生徒の心理的安全性が高まる工夫を」「家庭への意識啓発は難しいが大切な視点」
教員研修の充実 :「授業研究に年間を通して取り組んでいる、すべての先生方が子どもたちのために授業力や指導力向上のために研修や研鑽を行っている点がよくわかりました。」 「先生のスキルアップが生徒の成長につながる部分もあるので色々なことに挑戦してほしい」
小中連携の充実 :「小中での合同研修や研究授業など今後も有意義な取り組みを期待している」
危機管理 :「さまざまなリスクを想定したミニ研修は効果があると思う」「子どもの安全と教員の服務に関する事柄など多岐に渡っていて大変だが、引き続き効果のある取組みを行ってほしい」
家庭地域との連携 :「皆が参加しやすい PTA 活動をすすめてほしい・引き続きよろしくお願いします」

5.次年度に向けて

項目	○改善方策
て 学 習 指 導 ・ 授 業 に つ い	・学習指導要領の趣旨を踏まえ、主体的対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を推進していきます。 ・一人一台端末タブレット iPad の効果的な活用、「個別最適な学び」「協働的な学び」を一体的に充実させ、引き続きネクストギガを踏まえた研究を進めていきます。 ・「教師が教えるだけの授業」から「生徒が学び取る授業」への転換をすすめてまいります。 ・学力向上授業改善部を中心に、教科部会や校内研修、研究授業の活性化と課題解決に向けた取組みを具体化していきます。 ・学校教育目標の達成、めざす子ども像の達成のため、グランドデザインをより実用性のあるものとし、各学年、各教科、各分掌の活動を効果的なものにしていきます。
支 援 教 育 ・ 人 権 教 育 ・ 道 徳 教 育 ・ 安 全 教 育 の 充 実 に つ い て	・支援教育の充実に向け、「ともに学び、ともに育つ」の観点から、集団づくり、学級づくりを一層充実し、人権が尊重された教育の推進を学校全体で進めてまいります。 ・学校全体で支援教育に関する理解を深める研修を企画立案し、実施します。 ・発達障害を含む障がいのある生徒、またその有無にかかわらず、将来の社会的自立を促進しすべての生徒が「ともに学びともに育つ」教育の充実を図ってまいります。 ・全教職員が支援教育に関する理解を深め、生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握することで、自立に向けた効果的な指導と支援をすすめてまいります。 ・教育支援ソフト LITALICO を活用し、生徒を丁寧にアセスメントし、効果的な支援となるよう努めてまいります。 ・人権教育の充実について、さまざまな人権課題に触れ、考える機会を設けることで、自他ともに認め合いいじめなどに向かわない集団づくりにつなげてまいります。 ・生徒指導の充実について、引き続き、生徒指導主事を中心とした校内指導体制を整え、課題や問題に組織的対応をとれるよう図っていきます。 ・すべての生徒を対象とした「発達支持的生徒指導」について研究と推進をすすめてまいります。 ・道徳教育の充実に向けて、家庭や地域との連携をすすめ、家庭地域学校が一体となった取組みをすすめてまいります。 ・安全教育の推進について、日頃からの施設設備の点検を行い、学校事故の防止に努めてまいります。 ・危機管理マニュアルの点検見直しとともに、本校の危機管理体制整備を図ってまいります。 ・地震や火災だけでなく、非常変災や感染症の拡大、熱中症等、さまざまな状況にも対応できる力の育成に取り組んでいきます。 ・教職員に対して、適切なタイミングでリスク研修を実施し、学校全体で危機管理意識の醸成に取り組んでいきます。
教 職 員 研 修 の 充 実	・服務規律の確保、徹底を図り、保護者、生徒など学校に関係する方々からの信頼を高めるため、より効果的な校内研修を実施していきます。 ・教職員が働きやすく、心理的安全性の高い職場環境を整えることで、高い意欲と優れた指導力を持つ教員の育成をめざしてまいります。 ・校内研修の実施について、服務規律の確保、授業改善授業づくり、いじめ不登校対応、人権支援教育の充実、業務改善働き方改革の5点を柱とすすめてまいります。 ・府や市が実施する研修だけでなく、日常的な OJT の機会を活用、推進し学校全体の教育活動の向上を図ります。
小 中 連 携 ・ 危 機 管 理	・小中一貫教育の推進について、校区3小学校とともにめざす子ども像の共有と校区合同研修や校区授業研究をすすめてまいります。 ・ブロック校長会、推進部会で校区共通の課題を共有しながら9か年の一貫した教育活動の推進をめざしてまいります。 ・小中一貫学力向上コーディネーターと校区小学校のリーダーを中心に連携を密にとりながら中宮中校区の小中一貫教育充実に取り組みます。

以上の内容で、令和6年度の中宮中学校の取組みに関わる学校評価を実施いたしましたので、ご報告いたします。

この学校評価を、令和7年度の取組みに反映させ、本校教育を充実させてまいります。

枚方市立中宮中学校 校長 古川 敦史